個人空間における身体条件が及ぼす影響

西山奈穂¹・矢野亜依¹・大西まどか¹・小松英海²・小田浩一¹

(¹東京女子大学・²慶応義塾大学)

キーワード：個人空間、対人距離、身体の向き

The influence of body conditions for personal space

Naho NISHIYAMA¹, Ai YANO¹, Madoka OHNISHI¹, Hidemi KOMATSU² and Koichi ODA¹

(¹Tokyo Women's Christian Univ., ²Keio Univ.)

Key Words: Personal space, Interpersonal distance, Orientation of the body

目 的

様々な人と関わりながら生きる私達は、日常場面で意図的、あるいは無意識のうちに自分の「なわばり」を形成している。個人空間の構造について田中（1973）は、身体を中心に前方が大きく、後方にくに従って小さくなる卵形の異方的構造を持つことを明らかにした。一方で Horowitz et al. (1964) は、個人空間に脅威を感じるものから物理的に距離を置くことによって自己を防衛する機能、いわゆる身体緩衝帯としての機能があると述べた。個人空間がこのような機能を持つとすれば、背後の存在に対しては相手の姿が見えないことで不安が生じ、自己防衛のため大きな距離がとられることが予想される。これに関連して Newman et al. (1973) は、個人空間は前方よりも後方の方が大きいと報告した。しかし、これまでに後方の個人空間について具体的な検証を行った研究はほとんどない。

よって本研究では、「背を向けた人」を相手にした場合の個人空間を明らかにするとともに、背後に居る人の存在、気配をどう感じているのかについて検討を行うことを主な目的とした。

方 法

女子大学生 30 名を対象に、90・110・130・150cm の 4 つの距離において相手に対する居心地をどう感じるかという「居心地尺度」を記入してもらった。その際、要因として親密性（高い・低い）と接近者の身体の向き（正面・後ろ向き）を加えた。尚、実験は二人一組で行った。

結 果

接近者と被接近者の居心地尺度の評定値平均について、接近者の身体の向き×親密性×両者間距離の 3 要因の分散分析を行った。得られた主な結果は次の通りである。

1) 被接近者の評定値平均について、接近者の身体の向きと両者間距離の交互作用が認められた ($F(1, 29)=7.264$, $p<.05$)。単純主効果検定の結果、両者間距離が 90cm と 110cm のとき接近者の身体の向きによる有意差が認められた (図 1 参照)。

図 1 被接近者の居心地尺度の評定値平均と標準誤差

2) 接近者の評定値平均について、接近者の身体の向きと両者間距離の交互作用が認められた ($F(1, 29)=3.920$, $p<.05$)。単純主効果検定の結果、両者間距離が 150 cm の時のみ、接近者の身体の向きによる有意差が認められた。また、接近者の身体の向きが正面の場合はどの距離においても評定値平均の差が有意となったが、接近者の身体の向きが後ろ向きの場合、両者間距離が 130 cm-150 cm の間で有意ならなかった (図 2 参照)。

図 2 接近者の居心地尺度の評定値平均と標準誤差

考 察

1) 相手と向き合っている場合に比べ、相手に背を向けられている場合の方が、より個人空間が小さくなる傾向が見られた。互いの顔が見えない場合には、自身がおかれた状況をどのように捉えるかという認知的過程が個人空間のより重要な決定因になっている可能性が高いことが示唆された。

2) 両者間距離が 130 cm になった時を境に、前方よりも後方の個人空間が大きく取られるようになることが分かり、ここでは Horowitz et al. (1964) の知見を支持した。接近者の身体の向きが後ろ向きの時、130 cm-150 cm の間のみ有意差が認められなかったことから、背後の存在に対して自己防衛のために確保したい十分な距離は 130 cm 付近であると考えられる。

3) 今後は、認知的過程が個人空間のより重要な決定因になっている可能性を考え、実験方法について、身体的・物理的な条件の統制の他に、参加者の「自分自身が見られているという意識」や「相手に対する脅威の意識」を十分確認することができるような工夫を施す必要がある。

引用文献

- Horowitz, M. J., Duff, D. F., & Stratton, L. O. (1964). Body-buffer zone. *Archives of General Psychology*, No. 1, 651-656.
- Newman, R. C. & Pollack, D. (1973). Proxemics in deviant adolescents. *Journal of Consulting and Clinical Psychology*, No. 40, 6-8.
- 田中政子 (1973). Personal Space の異方的構造について 教育心理学研究, No. 21, vol. 4, 19-28.